

平成30年度実施「いきいき協働事業」相互検証評価シート

事業名	ペアレントプログラム及びペアレントメンター実施事業
団体名	NPO 法人 こども未来ラボ
担当課名	障がい者支援課

①目的の共有（事業の目的をお互いに理解し、共有しながら事業を進めたか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :1
・「発達障がいの特性を理解し、支援者や保護者にその子の在り方を支える」という目的を進めることができた。	

②自主・自立の尊重（双方の団体としての独立を尊重し、過度に依存することなく事業を進めたか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :1
・互いの得意分野を尊重し合いながら事業が進められた。	

③相互理解（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方を理解し、柔軟な対応が図られたか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :1
・地域の課題解決のために相互に仕事の分担をし、責任を持って取り組めた。	

④対等関係（互いの事業活動における対等な立場を踏まえ、事業を進める様々な場面において、適切な協議、意見交換等の機会を設け一方的に決めることなく十分に話し合ったか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :1
・報告、連絡、相談業務がスムーズに行われた。特に相談業務は十分に話し合いが持てた。	

⑤情報の共有（相手方と十分な情報の共有ができたか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :1
・いろいろな情報はその日のうちに連絡を取り合い、共有ができた。	

⑥役割分担と責任の明確化（事業実施にあたって役割分担が明確に定められていたか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :1
・分担表の作成が明確であったために、事業が滞ることなくスムーズに行われた。	

⑦協働事業の相乗効果（市が単独で実施するより効果的・効率的な事業展開ができたか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :1
・団体の持つ地域密着型の情報と市の持つ行政、広報力の融合は効率的な展開につながった。	

⑧目標の達成（事業の目的が達成できたか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :1
・アンケート結果から、またプログラム後のお母さんたちの繋がりからも全体の企画/運営は達成できた。	

⑨地域の課題解決（事業を通じて地域の課題解決につながったか）

団体自己評価 :1	担当課自己評価 :2
・講演会、ペアレントプログラムを通じて発達障害への理解を深めたことで「育て難さ」を抱えている保護者、支援者に対してその支援を行うことができた。	

⑩その他意見（提案団体から）

協働での企画/運営が2年目となり、参加の保護者、支援者の方たちのプログラムに対する積極性を感じた。これは地域での家族支援の官民協働の継続性が重要である事も示していると思われる。	
--	--

※自己評価項目

1	十分達成できた
2	達成できた
3	概ね達成できた
4	目標を下回った
5	達成できなかった